国土学事始め

大石久和
国土学アナリスト

少子化の本当の原因

日本人の少子化が止まらなくなっています。２０１９年に出生数が５万３０００人も減少して、一挙に90万人割れを起こし、当時の安倍晋三総理が国難だと叫んだばかりだというのに、22年にはもう80万人以下というレベルにまで減少しているのです。

実は、この数字を上げるのはもうほとんど不可能だと考えます。現在、20歳～40歳の女性層は１２９７万人いますが、20年後にこの年齢層に達する現在1歳～19歳の女性は１００７万人しかおらず、２９０万人も出産年齢層の女性が減少してしまうのです。

もう一つの側面は、特に男性の非正規雇用化の増大による「職の不安定化と貧困化による非婚化」で、50歳時点での男性の未婚率はどんどん上昇して、最近では30％近くにもなっています。そのため、男性の有配偶率は30歳から34歳の年齢層で、正規雇用では59％ですが、非正規雇用では22・3％、パート・アルバイトでは15・7％とずいぶん低いのです。

不安定な非正規雇用では、長い年月にわたって安定した収入が前提となる「結婚して子供を持つこと」に踏み切れないのです。にもかかわらず、直近の22年のデータでも、正規雇用が前年比12万人も減って、非正規雇用が13万人も増えているのです。

これで少子化の解決策は、子ども手当アップだとか出産費用支援などだけではないことがわかります。異次元の対策というのなら、もっと問題の本質に切り込んでほしいものですね。